
忘却のすゝめ

マスカレードF

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

忘却のすゝめ

【Nコード】

N0033P

【作者名】

マスカレードF

【あらすじ】

『冬と君』の別視点です。

短編なのに、続きを書いてしまった……。これで終わりです。

（前書き）

『冬と君』の続きみたいなものです。

未読の方は、そちらを先に読んで頂けたらと思います。
これで終わりです。

さんざん言っただけ

アイツを行かせていいのかと

聞き分けの良いふりなど、酷く無意味な行為なのだと

アイツはアンタが思っているほど繊細じゃなく

アンタが信じているほど誠実でもない

長い腐れ縁の俺が言っただ、間違いない

なのにアンタときたら、恋は盲目

仕事の合間を縫って探し当てた、庭付きの小さな家

都会育ちのお前がこんな伸びやかな風景に馴染む男だとは、知らなかったよ

「待つてる人がいるのを忘れたか？」

問う俺に

「忘れた」

とお前はハッキリと俺の目を見つめて言う

「この写真を見せなきゃいけない人がいると思うか？」

問う俺に

「いるよ」

と静かにお前は目を伏せた

「綺麗に撮れてますね」

バターと砂糖の甘やかな香り

焼き立てのクッキーの乗った皿がコトリと俺の前に置かれた

俺の向かいに腰掛けた女性が、彼女の小さな子供と旦那がボールを追う姿に目を細める

短い黒髪がサラリと風に揺れて、彼女の優しげな顔を幾度も撫でていた

「うちの人と付き合いが長くていらっしゃるんでしょう」

ふわりと耳に心地よい声

「ええ、かれこれ20年以上になりますね」

「うちの人って昔はどんな感じでした？昔の話、全然教えてくれないの」

少し悪戯っぽく聞いてくる彼女に、アンタの面影は無い

いいですよ、と答えて彼女の旦那との付き合いを語って聞かせる
小学生の頃、中学生の頃、高校大学を経て一緒の会社に勤めていた頃のこと

一人の女性の存在を、話から完全に消し去って、彼との思い出を語り尽くす

案外、それで何も不都合は無い

帰ると告げた俺の背を、アイツは無言で見送った

もう二度と会うことは無い

あの時、アンタがアイツを引き止めなかったように、アイツも俺を引き止めなかった

最後まで、俺にもアンタにも詫びの言葉を口にしなかったアイツそのらしさが酷くおかしかった

もとよりこの写真の風景を壊すつもりなどないさ

どうぞお幸せに

小さな家を背景に、暖かな陽光を浴びて笑う、男と女と小さな子供

見つめるアンタの目はどこか遠く、その口が語るのは夢ばかり

真っ白な部屋の中、以前よりも白く細くなったアンタ

髪が黒くなきゃ、いつか部屋に溶けて消えちゃうんじゃない？

なんて俺の言葉に覇気無く笑い返すアンタに我慢出来ず、俺の足先が苛々と床を打つ

このまま何も見ないでいるつもりなら、俺は心底アンタを軽蔑するよ

アンタはそんな人じゃなかったはず

写真の女が自然の風に任せて髪を揺らせるのと違って

アンタはその綺麗な長い髪を、自ら颯爽と歩くことで美しく靡かせていたはず

夢の男はさつさと忘れろ

俺のように記憶の彼方へ飛ばしてしまえ

それで何の不都合もなかったよ

長い腐れ縁だった俺が言うんだ、間違いない

随分久しぶりにアンタが俺を見た。

帰り際、ドアの前、何か欲しいものがあるか、問うた時

大きな目が、アイツではなく俺を、しっかり見つめて

形の良い唇が、季節外れのスイカを所望した

スイカでいいの？

季節は合っていないけど、極上のスイカなんて簡単に手に入る
一個でも二個でも、もつとたくさんでも
そんなものでいいわけ？

アンタが望むなら、なんだって手に入れてみせる自信が、あるん
だけどな

俺を見つめるアンタをもつとよく、近くで見たかったけど
こんなことで、再度ベッドの傍に戻るなんて、格好がつかない
昔から、アンタの前では格好つけるのを止められないんだ

軽くアンタの要望を了承して、アンタの世界から出て行く

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0033p/>

忘却のすゝめ

2010年11月19日08時12分発行